

平成28年度 生活・自立支援キャンプ事業

子ども生き生き体験学習①

- 1 趣 旨 母子生活支援施設との連携を深め、様々な体験活動をとおして、子供たちの豊かな情操を養い、自立を支援する。
- 2 期 日 平成28年5月21日（土）～22日（日） 1泊2日
- 3 対象者 母子生活支援施設「菊花寮」に入所している親子
- 4 募集定員 無し
- 5 参加者 19人（未就学児7人 小学生4人 保護者5人 菊花寮指導者3人）
- 6 指導者 国立大隅青少年自然の家職員

7 日程と主な活動

《1日目》	9:55	10:40	11:40	12:00	13:00	16:00	20:00	21:00
5月21日（土）	《生活》 垂水フェリー乗船	自然の家へ移動準備	出会いのつどい オリエンテーション	昼食 レストラン	《体力》 スポーツクライミング ボール遊び 遊具遊び	《生活体験》 夕食作り 夕食 後片付け シャワー	《自然》 星空観測 自由交歓	一日の まとめ 就寝

《2日目》	7:00	9:20	10:00	12:00	13:00	13:40	14:05	
5月22日（日）	起床	《生活》 朝のつどい 朝食作り	新城海の家へ移動準備	《自然》 カヌー体験 水遊び 砂遊び	昼食 (弁当)	アンケート 振り返り 別れのつどい	垂水港へ移動	《生活》 垂水フェリー乗船

8 事業運営について

- (1) 昨年に引き続き、鹿児島市の母子生活支援施設「菊花寮」と連携して、施設で生活する親子を対象に体験活動を行う中で、子供たちのあいさつや返事などの基本的な生活習慣の確立や自立心の育成に貢献できるよう心がけた。
- (2) 未就学児が多かったため、食事作りにおいては小学生のみ参加するように配慮した。
- (3) スポーツクライミングやカヌー体験など、未経験の活動を行う中で、子供たち自身が達成感や満足感を味わうことができるよう工夫した。



9 事業の実際

- (1) 子供たちはこの事業に参加することを非常に楽しみにしていたためか、鴨池港からのフェリーでの移動中、若干興奮気味ではあったが、比較的穏やかに過ごしていた。
- (2) オリエンテーションの中で、子供たちが事故や大けがにつながる言動を行った場合には、厳しく指導する旨を菊花寮指導者や保護者に伝え、生活指導の必要性を伝えた。
- (3) スポーツライミングでは、何回も挑戦する子供がいて、頂上に到達したときには満足感に満ちた笑顔を浮かべていた。保護者の中からも参加者が多数出て、親子互いに声援を送る温かい場面が見られた。スポーツライミングができない幼児は、プレイホール内の遊具等を使って、親子で楽しく遊んでいた。
- (4) カヌー体験に入る前に、ライフジャケットを身に着け、海に入り、沈まないことを確認したことにより、多くの子供が恐怖心を持つことなくその後の活動に入ることができた。反面、初めて海に入る幼児はなかなか海に慣れることができなかった。
- (5) 風向や風力が心配されたため、カヌー体験を希望した3家族は浅い場所でカヌー体験を実施した。海に出ると、親子で息を合わせて前進したり、左右に曲がったりする練習をしていた。
幼児は保護者と一緒に岸からロープでつないだボートに乗ったり、水辺での水遊びや砂遊びを行ったりした。

10 参加者の感想

- 初めてのクライミングで、頂上まで登り切れたことがうれしかったです。(小学生・男児)
- 3人とも初めての海だったので不安でしたが、お兄ちゃんはボートでもカヌーでも何でもやっていて、感動しました。(保護者)
- 今回を通して、新しく友達になることのできたお母さん方や子供たちの姿をたくさん見ることができました。普段の生活だけでは、利用者さんたちとここまで深く関わることはできなかったもので、本当に貴重な時間を過ごさせていただきました。(菊花寮指導者)

11 成 果

- 母子生活支援施設の職員と事前打合せ等を入念に行い、本事業の目的と内容について共通理解を図ったことから、子供たちや保護者の実態を考慮した活動を実施することができた。
- 今回参加された施設を含め他施設に対し、子供たちの基本的な生活習慣の確立や自立心の育成のために体験活動の必要性を引き続き呼びかけていく。

